

熊本地震の影響で土砂災害や洪水での二次災害が起こりやすくなっています

6月は
土砂災害防止月間

早めの避難を心がけましょう

熊本地震により、さまざまな地域で地盤の緩みや亀裂が生じています。そのため、雨が降った際に、普段よりも土砂災害や洪水での二次災害が起こりやすくなっています。災害はいつ起こるかわかりません。「危ない」と思ったら、早めの避難を心がけましょう。

前ぶれ現象に注意(こうなったら避難を)

がけ崩れ



- ・がけからの水が濁る
- ・小石が落ちてくる
- ・がけから音がする

土石流



- ・山鳴りがする
- ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- ・川が濁ったり、流木が流れる

地すべり



- ・地面にひび割れができる
- ・井戸や沢の水が濁る
- ・がけや斜面から水が吹き出す

要チェック

熊本県土砂災害情報マップ <http://sabo.kiken.pref.kumamoto.jp/website/sabo/>
【土砂災害危険箇所】と【土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域】が確認できます。

■ 県の土砂災害危険度情報・降雨量・前兆現象などを元に、次の3段階に分けて避難情報を発令、お知らせします。

① 避難準備・高齢者など避難開始



- ・人的被害の発生する危険性が高まった状況です。
- ・避難するのに時間がかかる高齢者などの要保護者やその支援者は避難を始めます。
- ・通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めます。

② 避難勧告



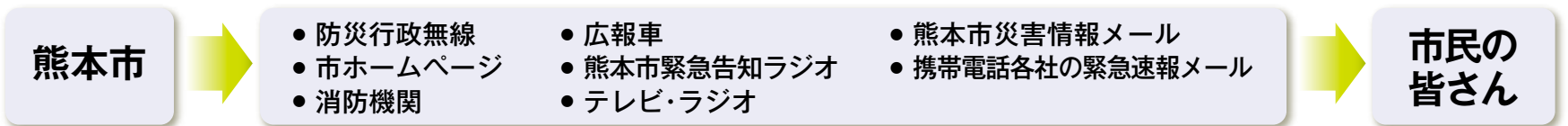
- ・人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況です。
- ・すべての住民は指定された避難場所に避難を始めます。

③ 避難指示(緊急)



- ・人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況です。
- ・避難中の住民は直ちに避難を完了してください。
- ・まだ避難していない住民は直ちに避難します。

■ 主な避難情報の広報手段



今すぐ登録を! 熊本市災害情報メール entry-kumamoto@fastalarm.jp に空メールを送信
(注意報・警報や避難情報をメールでお知らせ)



避難するときの注意点

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。乳幼児や高齢者などの要配慮者の保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

■ 避難に関する基本的な考え方

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動をとらなければなりません。

命を守る最低限の行動を

安全の確保を第一に考えます。危険が迫っている場合は、指定された避難場所への移動だけでなく、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。

例えば...

- ・土砂災害の危険がある地域に住んでいる
- ・堤防の決壊で家屋消失、浸水の危険がある地域に住んでいる
- ・乳幼児や高齢者などと一緒に住んでいる

水平避難

とにかく早めの避難を!

- ・夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
- ・ひざ上まで浸水している(50cm以上)
- ・浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い
- ・浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある

垂直避難

屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がない場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。